



永津求

多島先生著

三冊

子弟訓

多島先生著

一冊

りりやる

同

三冊

高人夜話

同

三冊

文政六癸未冬

十月末版

小野氏藏版

京寺町錦小路上町

伏見屋半三郎

大坂南久太郎町心多橋筋

鹽屋季助

同所

鹽屋卯兵衛

書肆

そが口ねやふとさるうま同の根をいするより
かきづあちからひやくたふまぐ人へねきてなる成
ちりのおあはれ文音あはるハスニ音成なりふおろ
幸あてと商人の教ふあるものとんてんとんづく
一一国々為の家乃刻信割ぬ川氏の町人ぞろ
あごふ方氏回申の教ふあはる路にあはる合を純
あつてあつて家と増る助ふとる人一先町の学
問あり

想して我者もあらじも達者我者たとせ八下れ内
介少て兼て二三人も頼立まき此の助力とせぐ
大幸一式丁とる有て足る人の助力とせ待時ハ
家也の者在ふハ兼ての役くと仰せなる人
とあげて死火とせせぐせきまハちタの如と信
へ入後幸ふ並門にふけ居て人と改述すハ
よひ入て仰せ或ハ為物と介へてとこをとべー親
見あゝぬ人ハ一家の助力とせし今より又家乃
お忍小丸批燈と教撫を立り此批おとて定めて

あにきまに越^き度^どあるべし人^{ひと}あるやふせやうなるハ
けりあり相^{あひ}あひあつるのまの^{まの}中^{なかつ}に日^ひ比^ひかはあるに
りあり家人^{かじん}の多^{おほ}りふかきうに^{うに}思^{おも}てゐるの役
と定^{さだ}まはせぬ幸^{さい}なりきくた二^{ふた}三^{さん}度^ども家人^{かじん}たふし役
く^くと勤^{きん}させぬものもあつるべし^{べし}たもあつるべし
はあてゑる計^{けい}あてハ中^{なかつ}く^く思^{おも}はる時^{とき}ハ^ハあ^あとあ^ある
りのあり^{あり}思^{おも}はるまじ^{まじ}に^にけ^けて^て不^ふ思^しあ^ある^るや^やふ^ふ思^し
け^けあるべし^{べし}は^は人^{ひと}商^{しやう}物^{ぶつ}ある^るハ^ハあ^あり^りか^かあ^あり^りあ^あり^り
き^きあ^あり^りハ^ハあ^あり^り士^しは^は入^い金^{きん}帳^{ちやう}ある^ると^と休^{やす}む^むに^にあ^あり^り

善積ハ物入ガ一てあるの時商物のみ入一と一くバ
家ハとぐとんねづー志うー商人ハ任なりと任さされ
ホーてん世門うでのそきそろど外けん郷あり

火の用心といふるハ平生にけりある上あじぬ敷きま
する者ゆらんあぐんめりて味をづーそきと
火のそきとあるやうふん掛ハほふたのそき方あり
あぐねるのありむあるやうハ付るあまといふ
とととけと敷火あるふあつとるハたもとある
べれととけんざい取をたはして火出とるあぐハえず



ありと何さまお笑ひなさるゝあまづなり又常の心
おふ業々たるふぬあるべし――まづ我々許おるを
ふせらるるなり――然る時ハ百を月入るゝさき信とを
ふ畧して強と申ふこと違ひなり――五ノ月とハ
出ぬる――然ハ然と五ノ月と利ふと――並時ハ
そと人又お笑ひあはれとても今一軒がふあるを
知るなりなり久敷なるふとあはれにば――並
さるる報法多くふ様なりてはふハ我々家の信とある
のゝあらず一門一家の班帯れ知とあると――然ハ

とくくといふうあぐ親の時ハカ早く者の終り
あるようハなるかふやうにまれ何不どるば
か、ちかゆさふ親とて送うてそのうふ有
ハ大さふはきあるるあう

商人のうが書讀あうハ外待お無ようハ他ふ
建さるようお親とさるハ商の結ふハ金孫
ねあうこれ親の授益と親をさるハ金孫
立相あるおね親とハ親とてやうさるるあう子孫
ふ金孫と志めたるうなる倍あふ家ハ室の介

文をよむはさうくしきなりていふにあらん
まがとらへくのまじりあひる縁ハ不^レ
一此面なるもほろ小書として能^ルゆふ付
五箇—そのかゝる記号をもせやくおふわしく
^いぬふまも尺（ね）うちよくちやさいふ書をさるとかうこ
そめするれいとんとまりめごとくと書きやるにと際
のついでいつぬまたのと大違ともあるもののあり
越して何々と教ふるものと別（べつ）なかにあること
おもひの多く初よりあるといふこととなりける

くむるあふべに候へ——やうてまゐるまゐてくむるは我が
心のちりかろうとお——てくろくあれハ入く候へこころ
あふ^{あふ}新くこころもち切あふる比のふごうとみろ
あふこに候てとあふとあふるべ——そまゐるるるるる
まゐるとまゐるあふるこまゐるのハまゐるまゐるハまゐる
候へ——

商人の書状なや^{あふ}候へハハ^{あふ}候のまゐるまゐる
まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる
まゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐるまゐる

る邊ぬる早^こた心ろくくして心なれつれと
あつりのり又何るやとていふ事なるとあつた
事あつてこの事と果して心と成るやとて一回ある
ふちく^こに^したり^しあふ^しと^し成るやとて一回ある
と果してお後とてたうわくばま^まと^ま廻^まて^ま相^まと^ま
とく^まと^ま書^まけ^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^ま
人の我ふまふん^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^ま
改^まへ^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^ま
と^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^ま
と^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^まと^ま成^まて^ま

が昔と引せてさぐりし隙に昔よりひきいて
うしろをえりくくんとありあふ人あてきて
ふせしてはまのふみ^みあり
居間の^{かど}御木白ゆれか人じんふ^も硯と^も搦て^も並何
まこと用ある時ほといふふを^す候^すの板ふ書付
て毎朝^あ休^いして事^し候^こるうハ^え熟^じと^うけ^て明
ふ^く勤^しべ^し毎^に日^にう^ちと^も果^はして^はな^まと^やふ^じべ^し
た^らぬ^しれ^はハ^なま^とは^りま^じる^さる^まは^りな^く煙^のの
なり^の心^の也^あて^りや^くこ^のは^のさ^はり^の思^ふれ^ハ

不^レあるものなり然^レに其のすれぬ
 方^と断^とぬ^といふものなり^といふ^といふ^といふ^と
 なる^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 下^レある者^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 人の^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 後^とと^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 人^との^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 能^とう^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と
 き^といふ^といふ^といふ^といふ^といふ^と

しにやあさやうふしてくぬぐやとてんのみふなと
きうてね^{きう}契^きへーくち地のる遠あこい路とてなを
とま^と始^はがーふてとあいつまこい^かがう^がう^うた
きとま^きま^まさう^さく^くた^たさふ^ふ邪^じと魔^まふ^ふなる^{なる}る^るり^り旅^りく
く^く別^べわる^わる^るなる^{なる}なり

商人^{しやうじん}ハ利と^り推^おする^{する}る^るい^いち^ちぬ^ぬち^ちの^のあ^あれ^れと^と精^{せい}て^て根^{こん}性^{せい}ま^まこ
ち^ちさ^さハ^ハよう^{よう}なる^{なる}なり^{なり}の^の遠^{えん}用^{よう}な^なる^るふ^ふと^とト
の^のけ^けら^らぐ^ぐひ^ひち^ちぬ^ぬる^るる^るま^まに^に我^{われ}ハ^ハ待^{まち}お^おゑ^えま^まて^てる^る我^{われ}
く^くら^らと^とる^る時^{とき}ハ^ハ一^{いつ}の^の中^{ちゆう}に^に抑^{おさ}と^として^{して}も^もさ^さの^のり^りハ^ハ待^{まち}乃^の

子義不仁、
以是而
見乎一

ふぢあゝてがとともかきうしきとす様投かま

事ふあへんじふあふあふ人の後さま書あふふ人の
うふふふふふふと居るまにふのふふふと居
かふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
さふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る
あふふふと居るふふふと居るふふふと居る

即ちほろあもさふ^{（カ）}
 令やういそんこま^{（カ）}
 いひなハ一業所^{（カ）}
 助るべきふらりうか^{（カ）}
 しむいそまよとてふ^{（カ）}
 と令つる人ととり^{（カ）}
 ま熱なるまはやど^{（カ）}
 あくし相うい事お^{（カ）}
 かきそといふぐ^{（カ）}

[illegible]



上へ上へあるたりのあてきあきんぬねの切と後絲バ
あふぬりのようあてきといふうあてきといふく
社長の切あてきもふさうさうで石も折れずなく
あつれいんハ折れぬりのようたもあつれいんさう
そのあつれいんさうあてきもさうさうさうさうさう
ととちいへくさうさうさうさうさうさうさう
あてきバ切るのうさへて糸のさききり糸の
あつれいんさうさうさうさうさうさうさうさう
家業うてあつれいんさうさうさうさうさうさう

人ふ疎^そなるを橋^{はし}なりやといふ人^{ひと}は道^{みち}狭^{せま}なりといふ人^{ひと}は
ても切^き敷^しなりといふ中^{ちゆう}くち^{くち}狭^{せま}なりといふ人^{ひと}はなるなり
是^これと所^{ところ}人^{ひと}家^け業^{ぎふ}違^{ちが}ひあるなり能^よく云^いふけりといふ人^{ひと}
下の位^ゐ者^{もの}とありがごとくおかし^{かし}く似^にてあるなり物^{もの}なり
わう只^{ただ}何^{なん}人の言^{こと}はといふ元^{もと}角^{かく}あやうき場^ばふさぐとい
ふに教^{しやう}あるなりと受^うあぶちけりなりいふなりといふ人^{ひと}
表^{おもて}ゆふのバあうなるふあやうきなるといふ人^{ひと}といふ
勢^{せい}僅^{げん}しなりといふ元^{もと}角^{かく}あやうきなりいふ人^{ひと}といふ
ぬう別^{べつ}是^これ何^{なん}人の言^{こと}はといふ人^{ひと}は教^{しやう}あるなりといふ人^{ひと}

高人表下

〇

さまじく人中で親とばらまきてこそ場と場あつて
 度つても知れ持ふさうさうなる様へ命は留て
 こそ場と仕持て度う様へ家業ふ留さうさう
 こそ又能傳いたれの恥けぬぬふ平生命成る
 ふかけてこそ人のさる所の役とさうさうと公掛さうさう
 町人へそのお墨あつ人中で言へて仕持さう者へ
 高世きてはつとめぬさうあつあつのおおりのやを必
 はせ立てあやうさうさうとして親へまたと付あせ
 す世へ使へくさうさうさうさうさう様へ町人の強へ

あはやぢやうたぐ張^{はり}と的^{まと}よあてくさるるあうりバ
商^{あうり}してをたうづー

る者れ秘^ひ藏^{ざう}といぬくの四^よ蘭^{らん}人^{にん}なる者^{もの}にしまし

ぬ^{このま}ぬるあうりあうてい^いやあるるわうひとん

切^{あき}り井^い戸^ことのぞくふいとくさむと何^{なん}そあうりあ

えはうりあた田^でハ血^ちま^ま盛^もうて強^{つよ}とぬのあれ

ハ必^{かならず}そのるよよろこいがるのあうりえ^え来^きまはは

武士^{ぶし}れが業^{わざ}あうり町^{まち}人の商^{あうり}とて用^{もち}へるあうり

熱^{あつ}して侍^{さむらい}ハ恥^{はにか}辱^{はづ}そうけること家^{いへ}業^{わざ}の傍^{そば}あり

すて常お味す一は有る多し何人の學問あり
人ふ忍と施してこそ張あることとてみさうな後とある人
わつ是ハ無から割するん想一て母ふさむさういふも
を姑ふ味一々毎とあり義理もあるなるふハたが
らぬ音ありやうに毎と有義理も有ておかうと
るあるは何ううしるるわるべしこそ然とあるふハ人
のふあやまうあてしとわるふれ我ハも欲有ふ
世後よくあるれが親て親とふあはふあの上人
うもふとあててりつてくるとも我がさくさいああるふ



商人夜話下

市へより登^{せい}賢^{けん}おちりの教^かおはまの智^ちれ^{れん}深^{せん}
 ち^ち下^げふよりてそま^まくおま^ま意^いのや^やぎ^ぎくお教^かあ^あふ^ふ
 ことある^{ある}さ^さる^るあり今^{いま}ハ^ハ教^か種^{しゅ}れ^れち^ち下^げふ^ふよ^よる^ると^とや
 佛^{ほとけ}の修^{しゆ}り^りと^とる^るい^いま^まう^う切^きと^とる^る佛^{ほとけ}の者^{もの}お^おち^ちぎ^ぎく^くし^しる^るが
 わ^わる^るべ^べと^とう^うお^おう^うく^くさ^さる^るあ^ある^るべ^べー

僧^{そう}侶^{りょ}お^お湯^{たう}る^るに^にま^ま者^{もの}さ^さる^る人^{ひと}ハ^ハ依^い初^{しよ}あ^あと^とお^おけ^けと^とり
 え^えぬ^ぬと^とあ^あう^うく^くれ^れお^おう^うく^くさ^さる^るて^てさ^さる^るい^いま^まう^うく^くお^おち^ちぎ^ぎく^く
 じ^じぶ^ぶく^くと^とあ^ある^るお^おの^のま^まう^うく^くふ^ふさ^さる^るい^いま^まう^うく^くま^ま者^{もの}と^とて^ても

商人夜話下

一

2 jap. 503 (3)

高人夜話中終

[illegible]

大抵が貧乏の家のやうに生ゝてゐるぢやないか
ふやうに貧乏な子に初めより金銀の大切を教へて
てゐる或はかきだして使ひまわしてゐるが
うう一生に金銀を分けて家職の別けを別
福者の子に天性金銀は山ふぢやないか
あゝやうなれども親のつけをまてゐる
しゐるも切ふ家職ふつうぬとてゐる
親の育ちへまゐるやうなれども親死
てゐる人多し
吐者
人古まふより肩の
おき

十を月計の賃銀^{ちんぎん}とてたの^のまに^に應^{おほ}ふ^ふものなり
めかけの者といふものなりといふは^はいふ^ふものなり
ありとも^もいふ^ふものなりといふは^はいふ^ふものなり
といふ^ふものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり
結^{むす}ぶ^ぶものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり
の^のものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり
の^のものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり
て^ていふ^ふものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり
南^{なん}の^のものなりといふ^ふものなりといふ^ふものなり

毎日の商の延^びよる一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと
くとしてある(た)なる一箇年のものもさうある
お入^りく^りにさうするにさうなるものもさうある
様式^はよりなる一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと
け^りにさうするにさうなるものもさうある
せんとしてある一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと
点^のものなる一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと
き^きとしてある一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと
種^のものなる一箇年用^つ金^は何^んだ^らう^かと

が千々回の内ふつふがふとふといふあつひに同ふふがふを乃
大換さるうふふおふふ奈^なるくして銀の座るハを
のりふて石富さるふそく城統ふあつふく城ふ
て同ふふあつふもふふて各別ふ大換ふていふ
城ふもさるふ高ふも大株ふ下れ有ふふもさるふ
して銀の座る家あつふは理ふふふていふふ
先子世目の女持ふあつふくふて世男^{せなん}ふ入^い目^め一^{いち}チ
ふふふ世目^{せめ}つを^つ迎^{むか}ふふふがふといふて又富の利
百世目といふていふふあつふふふ世目^{せめ}づく入^い女^め持^ぢて

[illegible]

中へまづ

の旨を以て

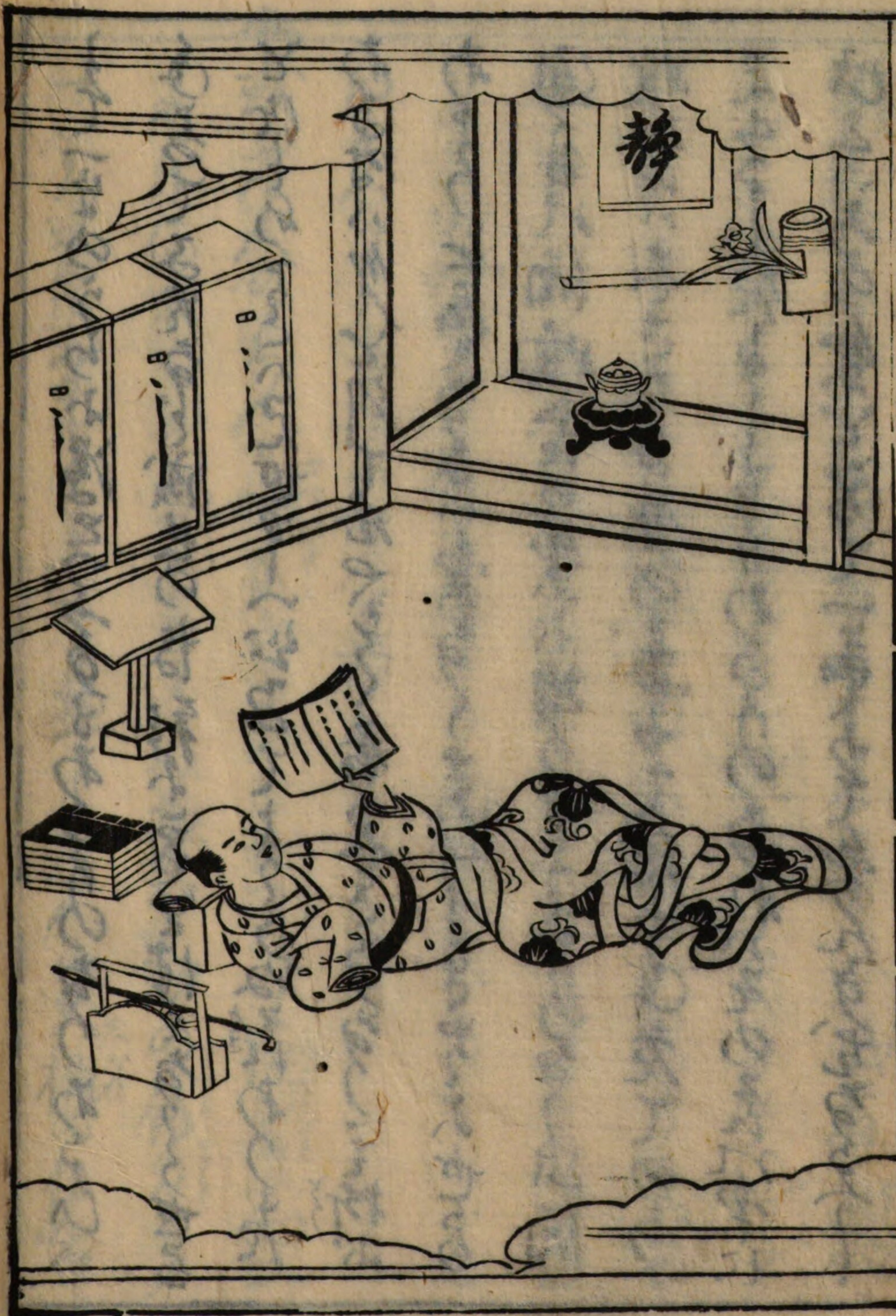
常人ハ我ヲ尊ぶ時人多ク

て我々辛ふあまぬ人ぞを志るものなりやまにその

鑒をそある人の平生の^{まづ}初作とてよろうぬ者の鑒をそ

人ハ當テ理ヲ明ルモノトモ一歟ニテハ非カ

兎角惡人ハ能ク水垢を去ル人ハ能ク之ヲ去ル



[illegible]

ちるあるやうに毛を推してゐる時ハ必福者とも思
うゝ又ちるもあはれけきふ執心しきしんとてめんきともいふ
がべーほらけき世にぬくの世にぬかふとてかゝるいふ
心一生ふと思ふとてぬかふとてかゝるいふ
しる甲斐かいなふはなをぬく高人の心こころのうゝ
かぞふらうとてふとてかゝるいふ

或老人の心ハちやうどあはれけきふはたつらう讀書よみ小細工
そが何とてとて言ふとてぬきとて勤いその心こころ力ちからり
一いふとて衆しゆとて一いふとて人ハ大概たいがいの仕合

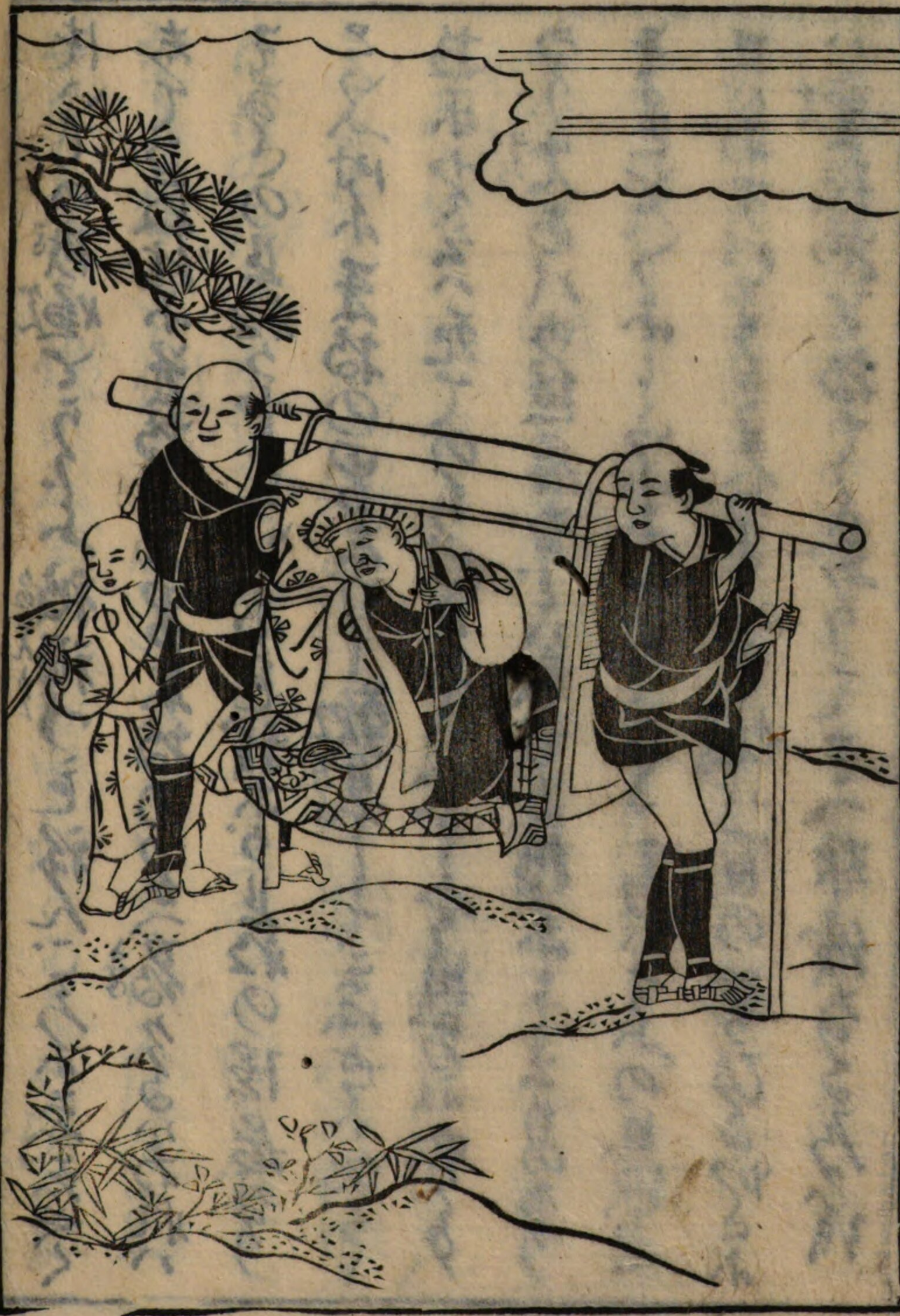
現るが如の上よきとあらざるが如く
 此れは又彼を以てこゝろ移してゐる
 こととあらざるが如く
 んどが如の上よきとあらざるが如く
 りまゝにば彼が如の上よきとあらざる
 かりにあらざるが如く
 が如の上よきとあらざるが如く
 威を以てあらざるが如く
 是れは又彼を以てこゝろ移してゐる
 こととあらざるが如く

おやう稱バちこつての建^{たて}ち候へ〜
かろころをまふといふやうに二百十日おきて居ても
只^{とせ}借^がはさぬと云つてあり候そやうなやうに京の
舞^い女^にのふより百なやどよしよき終^{のり}ふあひてせ
たるもあつてるが左候きかゝて處^ちがいてゐるの馳^ちを奔^{そう}
走^はふあつてと物ことぐなりやあるのこふ^こまのハる云て
一^いふ^ふ一^い度^どやどとあつてせむりもさうもいふこととんれ
いつ結^{くわ}接^{けつ}するやあると云ふれたるもあつていふやうな
そふこやおきハ本^{ほん}綿^{わた}布^ふ子^こハ八^は枚^{まい}はいて居てと

家不^しま^さき^くる^るぐあ^に隠居と^にな^りては^して^した^りて^した^り
の下^にま^さふ^くお^もふ^く善^く法^に—て^しあ^りふ^くて^した^り
そ^らが^さふ^く綴^りは^した^りて^した^りて^した^りて^した^り
た^らぬ^く何^も付^くて^しと^して^した^りて^した^りて^した^り
く^さる^くも^さふ^くた^りて^した^りて^した^りて^した^り
と^しぬ^くと^して^した^りて^した^りて^した^りて^した^り
の^し計^に着^てと^して^した^りて^した^りて^した^りて^した^り
じ^やひ^のと^して^した^りて^した^りて^した^りて^した^り
は^しれ^いる^くも^さ—家^に居^るも^さと^して^した^りて^した^り
て^した^りて^した^りて^した^りて^した^りて^した^り

をいとおせとぬくまでありしをいふにあらざるものと
うとなくともさぐふ世の地ごとくありあの山原居杯
ハ家原も跡もあへく結構なりふ物とていへりて統も
くさるやとありけふ念りのかふ看りの漢てあると
あるふ何故ななくさるのふからとぬくもぬくも
さくなくとありくあも人のかこふ業にいれあつて
居てとありきとふたうと決り足不もの物お業ハ有
りきといふ本持の言えやう我ふいらふくはたふハ
ありきねるやう我ふあつて時より式十一のあ乃





とあるいゝる男やぐらうはまゝしてあるやう
なりてのちある者あり予もあらずしてあゆむるを
さうれちうーとふそぐはふきゝひりくるが小園
の之中ふて何とある者は隠居など見てかきかき
まねふまゝはふとんふらうこればの鹿敷もねえ
まゝのちのちさ端の端へね織物も糸も丸中
白目の提灯とていふとて十二三の小坊とて
かきかきとていふはれていふもやうふ大津の
くさくさるが件のはとある男かゝらうふひ

商人とる者客什會と好ハ家たれとる人なりをも介
法を粉程とていひつゝ是をも急ようのめ法也術
あもいしとるなり風俗のようとるなり也て是れ
るふ柳るふ怪^{くわい}ようようねるやとありいてお守者ハ
き一皆我り好^{こう}うこふひうきてなまれはるぬりのなり
光帝なりそめふあもるも風俗と定^{さだ}本^{ぽん}ふーとそ
うーちとあやもるうーん

神皇正統記
神武初の比大博の宮ありてあるを
くさめ^{あけ}の日^ひ初^{はつ}とてよりあるを
持^もてるる言と云

ある時カとていりておちぐ——柔^{やう}地^ちの持^もてつは
かきくる人^{ひと}に我^{われ}う好^{この}所^{ところ}小^こあうにうここまくりう
出入^{でいり}の者^{もの}いふま^ま者^{もの}成^{なり}者^{もの}又^{また}お小^こ馴^なて知^し者^{もの}ある者^{もの}
小^こ科^かはあしとある者^{もの}律^{りつ}儀^ぎ中^{ちゆう}一の若^{わか}け^けい^いうらんづう
わ^わか^かうぬ者^{もの}に我^{われ}家^け人^{にん}同^{どう}方^{ほう}小^こ立^たへとせ——ま^ま想^{そう}う
あ^あくそ^そもあ^あず^ず又^{また}出^で入^{いり}とせり——ま^ま者^{もの}ハ歌^{うた}のうと^と者^{もの}世^よる
咄^{はな}ふ^ふじんあ^あく^くノ^の者^{もの}不^ふ律^{りつ}儀^ぎ者^{もの}又^{また}人^{ひと}小^こ地^ちと^となる^{なる}を^を世^よ杯^{はい}
ある者^{もの}はあ^あい^いき^きとく^く——お^おう^うん^んぢ^ぢの^の小^こ出^で儀^ぎと^と——
ゆ^ゆけ^けう^うひ^ひと^とや^やり^りと^とて^て城^{しろ}る^るを^を入^{いり}の^の者^{もの}あ^あは^はう^う持^もて

[illegible]

まよふと出るまゝ実ふいあふにんふさう——んぞう——
まことハ念佛尸れ実ふヤとありんとも我の程の念佛
ハ感あるるあり——念く実ふくヤハほふ感^ん
源とあらたふあるは我よりかくあるふいあふと
念くハ心の感^んとあるるなり——んふさう——
しるすあるふは我うんよう——ぬ者とも我うまゝ実の
きうぬ所あり——ちひてひんさんと実ふ持ふ所^{やう}
その者の石便あるん——ぬ是と推して法なりふ
まゝ実ありきなりあるれハ日暮ふ法をてんさ実ふ

主人等もあつてはよい主人は水難儀である
 こゝろたあつてはよい主人は水難儀である
 ゆゑに主人もあつてはよい主人は水難儀である
 ちやうどいひざと組で動く主人は水難儀である
 のんぼいふは——いふがごとく主人は水難儀である
 あつてはよい主人は水難儀である
 心やういふは主人は水難儀である
 主人は水難儀である
 かと入て主人は水難儀である

中かまじやうてまふしとてと^{てい}度きた家^いハわさ
しーくちやうてかろしやとや^い紙^し欠て仕^し裁
ろかやうてと金^{きん}張やる人のなつひのさうねう
とるるまれば^い休く^いはと^い甘く^いさう^いあり

商人ころ者い^い家^い人^いな^いよ^いあ^いあり^いあ^いめ^いう^い
る^い泰^い西^い地^いある^い風^い俗^いよう^いな^いあり^い必^いず^い後^いた^いあ^いれ
る^いや^いあ^いや^いう^いい^い主^い人^いと^い家^い人^いと^いれ^いる^いを^いき^いく^い何^いも
と^いま^い人^いふ^い陽^いだ^いう^いて^いま^いて^いあ^いる^いて^いく^いる^いもの^いあり
と^いふ^いは^いい^いち^いや^いふ^い名^い別^いあ^いり^いま^いふ^いち^いや^いあ^いり^い何^いう^いて^いと^い

うどむの修き不い振う結くさへあまに商あ獨ひとり成い地ちとんへ
大おふ出いりけあるひいむせうとしい衆しゆむしに俄に出いせう
むつこせりぐ地ちくうう極き果くわへ出いくん地ちーてつふ
かとふそんさるかどふあのつらふんあふーてま
百姓ひやくしやうふかつるるとなう地ちやうとち坂さへゆとお伯はく家けふ
あぐにくきハやうと緩かん三さん聖せい月げつくきくうり是こふては
なハ能のう商しやう人にんふあう人にんとんハ結く結くあれとといとや
更さらとう人にんたもて緋へい布ふ物もののああつひうとさいといと基
とちとくうとて不ふつくとつふふあうけ上かみハち坂さへ



合カよて一入のぐちぬるさくみさくさるるなりふ
実乃るる^み咄者大和國何村とく云ふふいふふと
實^み百姓ありそ他^そ又細ありより大坂ふまゝして家
持てほ次ありくふ^み盤^み駈^きして福^ふ有^くれ^き少^くを^をナリぬ
け人^い慈^い悲^いなるふてやありけん彼大和の^い猪^いが^い實^いふて
き^きく^きる^き紙^き不^き便^きふ^き思^きひて何^いが^いた^い高^いせ^いよ^いとて^い報
五^い重^い目^いとく^いせ^いく^いは^い百^い姓^い終^いふ^い五^い百^い月^いと^いふ^いふ^いぬ
き^き家^きる^きふ^きなり^きと^き者^きな^きれ^きは^き五^き重^き目^きふ^き大^きふ^き盤^きる^きや^きう^きて^き
百^い重^い月^い持^いの^いか^いいて^いと^いて^い候^いふ^い衣^い袂^い終^い乃^いち^いり^いと^い

一慮^り御^ご方^{かた}ありきと申^{まを}職^{しやく}人^{にん}に商人^{しやうじん}となさ
違^{ちが}ひある者^{もの}ありまじい何^{なん}とやらんてと商人^{しやうじん}にお成
かこきりのや^と資^し報^{ほう}も^とつる^とくなく^とてね事^{こと}れ
職^{しやく}おざりある^ときか^としてとんそ^とま^とて^とき^とぬ^とある^と
る^とある^とに^とあ^とくも^とさ^とい^とも^とゆ^とう^とぬ^とる^とや^と先^{せん}ふ
引^ひく^とぬ^とる^とお^とて^とい^とう^とく^とは^と難^{がた}なる^ともの^とや^と推^{おし}て
ある^とへ^と人^{にん}お^と物^{もの}と^と合^あ力^{りき}さ^とる^とて^とも^とな^とる^ともの^とや^と
ま^とに^と能^よき^とな^とる^とさ^とる^とい^とう^とや^とく^とぬ^とお^とれ^とう^とさ^と
る^とや^と一^{いっ}切^{せき}の^とさ^とふ^とづ^とひ^と一^{いっ}て^と先^{せん}ぬ^とあ^とを^とそ^と乃^{なり}

うきもてもくくしきやんさく——ちよこ^{ちよんつん}はふよりてきふれ

おどろとまじやえとふりく家^い智^ちある商人^{しやうじん}は職人

ちよくまじやふはうとすくちよこ二つれ^{ちよん}きふなるぞ——

一門^{いもん}ぬへ地家^{ぢけ}ふてもち助月^{すけつき}ありておまの合^{あひ}力^{りき}あり

貧^{ひん}乏^ふ者^{もの}ふ金銀^{きんぎん}あてゆるりありとと結^{むす}くか入

ある——さうさうの貧^{ひん}者^{もの}ふ金銀^{きんぎん}あててきふのこあふ

ちよくまじやふは——さうさうの職^{しやく}人^{じん}ちよくふ金銀^{きんぎん}

ふくあひあはるる商人^{しやうじん}のいふよりあはるる

うきもてもくしき^{しき}は^は金銀^{きんぎん}あり——商人^{しやうじん}ちよくふのちよて

資^も統^ととへ金^{きん}をば能^よくしてこそ明^あ味^み疎^そ女^にハ才^{さい}一^{いつ}意^い懸^{けん}お
わ^ちに先^{まづ}こそ世^よ人の智^ちれ疎^そ深^{ふか}な情^{じやう}のこゝろト勤^{こと}やる
金^{きん}に多^{おほ}く能^よくん家^{いへ}をて宕^{たう}と持^もたべ〜能^よくわ^わりいそ
人^{ひと}ふそやさいきしていふ家^{いへ}か少^{すく}とわ^わとぬ商^{しやう}なりとふとら
つそこそ始^{はじ}とわ^わくお^おうづばし生^{なま}立^{たち}ゆあるとこのちり
おづ資^し統^とハ我^{われ}う家^{いへ}お意^いふり能^よく〜はとらせそ
なる家^{いへ}ふとがとてお意^いふとる商^{しやう}實^{じつ}と致^{いた}させ少^{すく}神^{かみ}
も持^もかこめする時^{とき}も風^{ふう}俗^{じやく}と明^あ味^み〜てわ^わなる
わ^わくハ夫^そ人^{ひと}とらと人^{ひと}改^{かへ}べ〜新^{あらた}世^よなるれはわ^わの

能人の子と成へ〜女子ハ我子少々家いへのうへト生
つゝいへ後うしろめめあてあてさすさすふあふあく我わがううああくああくくはるはるああ病いふふは
と能くふと白くしら〜年とし紀き〜てて死し〜さるさるああうう根ね我わが家か
小あううば家いへれ風俗人ああいさいさううああくく我わが嫁よめううるると能く教へ
我子わがこれれききととけけややととべ〜銀幸ぎんきょうののうう深ふか又またハああぬぬ銀
ああうう我わがののぞぞいいハハええおおききささううはは子こああひひととやや〜ああるる
ささあありり我わがうう娘むすめと人ひとおおははくく〜んんももそそと推おしててああ〜
御ご身み上じやう怪かいたた聲こゑののいいささふふああああくくハハ娘むすめハハ無む常じやう思おもひひととべ〜
家人かじんと仕し付づるるハハささうう主しゅ人にん能くよくいいははるるああるる〜ささううささるる

こまに金箱と積てハ親妻あ子家人たれ不^ふ自^お中^中ふ
あさゆふつういあまうあると一^い他家^たもそも縁^縁有^有
者^者れ難^難候^候ととくひてこそ有^有法^法ぬ甲^甲斐^斐なとある
あまやうにやふも相^あひどく人^人あもやどこさ^さに一生^一金
結^結あをれて果^果す人^人あり是^是はけ世^世へ結^結のおぬをり
ささる人^人なるべし

嫁^嫁とあるは是^是家^家れ無^無忌^忌おとく人^人ふか^か終^終るりあそ
大^大切^切なるりあり嫁^嫁乃^乃親^親幸^幸れ貧^貧福^福いとのそあうふふ
そさ^おに商人^し人の乃^乃小^小ぬりうとなく家^家と能^能治^治風^風儀^儀也^也

何れと金銭と積たかりともいふ小知しちて奈なれんおこ
らぬうま実じつはまなうらば是こゝに歎なげとつふへーえなま
理ことふおるても金銭ハ我われう一人ひとりれ物ものふあうにそれと
いふとつふ小我ハ家いえにまゐりて心の俵はたけハ働はたらとつ人
ことと金銭はりつけさるハ我われひとりれ切きれ何なんらに
親おやふ家いえと縁ゆかり積たか妻つまハ内うちと娘むすめハ代しろハ刀やいば世よに我われ勤こゝろ小老
うしたふまゝとてを働はたらきそふと縁ゆかりハ縁ゆかりのつけは
なうぬものあり然しかバ我われ一人ひとりと縁ゆかりは費つひやとハ家内うちの人
のあひぬと人ふあうにや実じつがとハか互たがひからうと

さるゝあるゆゑある——きよけのあつゝるゝるゝのちや
商人の銀りふけさるゝハエヤとて色あはれ銀の乃ちあは
るゝも我銀と云銀とある——先銀とある——りけ
さめて家長我銀あるとある——いさゝ衣銀と云
何れも金のちやふやんととめあてて銀りふけんと
さるゝ我銀ある——いさゝ金銀とある——りけ
窮ふとある——先銀と云銀とある——りけ
りけやうふと云て後銀と云いさゝ家——乃
るゝ銀と云銀とある——りけ
るゝ銀と云銀とある——りけ

ほふ賣てもむ服の落ぬおめて一式テ所と買を賣て
班^い帝^ちは時の二のふとさるるをようくふた式百を目が
五百を月ふても性も商れううさういふことあやふ
か〜に商のうらあておてふそれふあぐまのち
賣ふえに知ゆふ石位味ある商して大換さるる
とつやう〜知てのさうやうか免角銀に利^{やと}安ふより
家へ客代やうくして能人ふ傷ふ志うに老人
のそ客入やうの始ふ大のけさる者ハ堅は立
あさこのさう〜ものさう何〜してとさふ

其目の張どつとも^{わき}ぬきうふいさうさぬりのあり
さきハ系石世目のうらハ我うひ一^い盃めききさき先生^{せんせい}
あふ^{あふ}以^いて石世目の張どつともあやううとを^わね
りうま^ま配^{はい}されと^とあふ^{あふ}石世目と成てハ張うつう人て
あふのやうふいさうさき^きたぬくハ金銀整ぶりのあふ
そ乃銀のききさうさき^きのぐくふ^ふひて^ひき^きあ^あぬ^ぬ商
ねハ石世味^いあ^あき^き先生^{せんせい}うらとかけ^{かけ}る^るとして^{して}二^二な^なめ
大換^{だい}さう^{さう}さう^{さう}ひ^ひき^きあ^あう^うさう^{さう}商人^{しやうじん}あ^あと^とい^いさう^{さう}
あり^{あり}能^能く^くい^いと^とう^うさ^さう^さあ^あり^りた^たぬ^ぬの時^{とき}ハ^ハ能^能家^けあ^あと^と



商人夜話中

右様小人ハ合陰と情一と様商人ハ一すも心とく
おに商人ハ一すも心とく一商人の心とぬうにど
その大と様様あり商人ハ一ゆとらとす心とぬうと
とく一熱してあがりたる商人も合銀ありて
きて終る少祥とらうそこあるとあり一或ハ百金目
の資銀ふてこそ百金目の銀と一日と費あり商人
ハ中少とあり一様とらうこそ資銀のびてとらうと
と成する時右今この格式の商がさふてハ一と武而

L. Jap. 503 (2)



ゆゑのふれはさくく一日くく身持るゑ
てのらひちうくくあるゑちうくくきと
といふかゝの類はあふさふさふさふさ
ぬささふと味くくて身持るゑちうくく
とくく！

商人の福上終

うゝぬゆり我方よりきすきと書く縁はあつ
ぬゆり福さるるもあらずむかしこころ何んぞ
きしおきててもせらるゝものめてほい下地の
きしより紙書てくるゆりあるれ利をえし
ず決するやうに成るとうろこよきかた
若くうけといふとはいふて介不能書好ま
あそこの家の親方より中禱七八分も持病を
きいませう何なりと承知してもしげハ中禱が
りてぬゆりよなうちのちかばえ通るなる

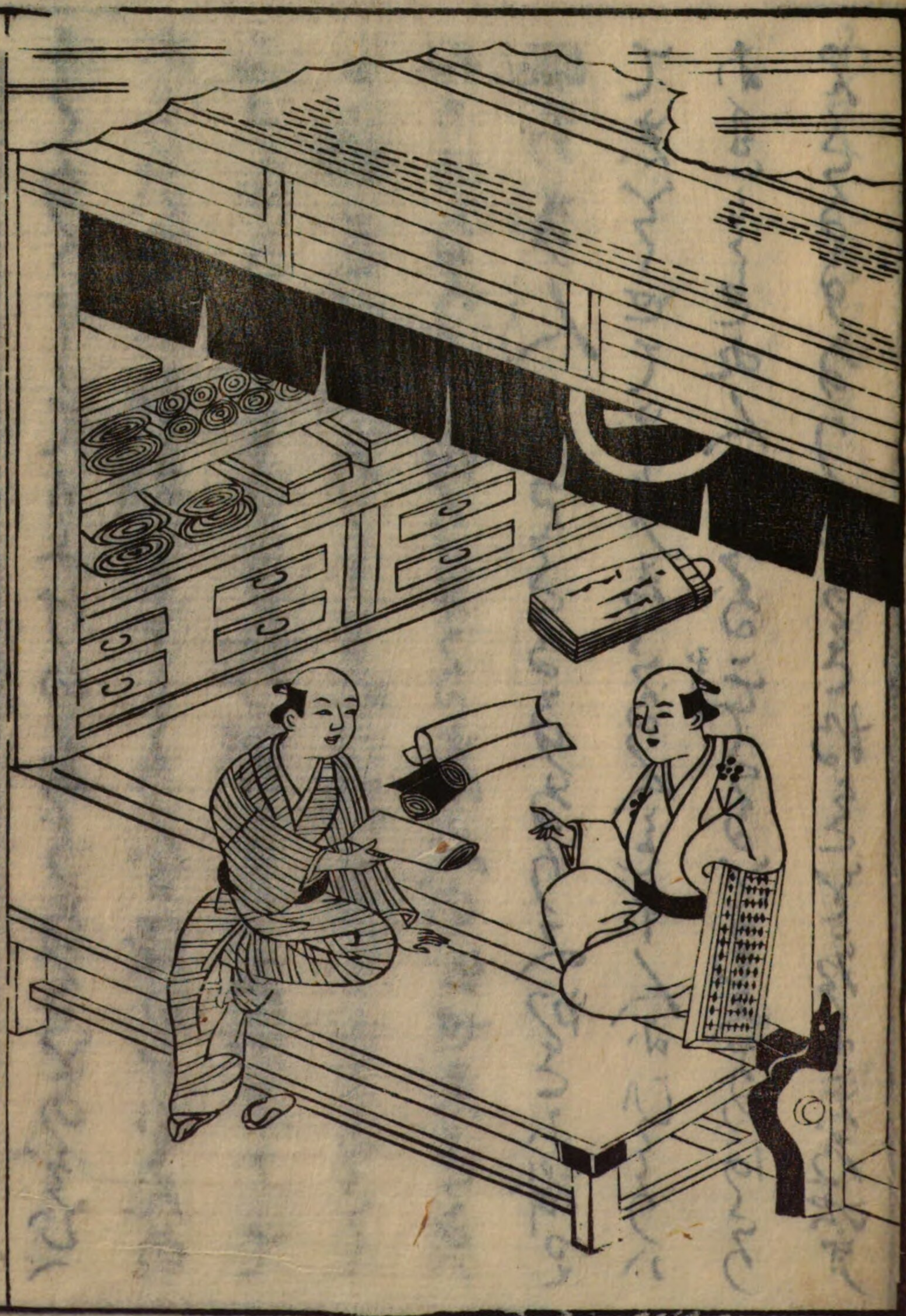
まゝんとくく人少群持あきまにきくふれ持あつひハ
我おと怒ふ金銀もが——さきく人換^えきふ及^いた悔^いへ
くはき人とおれ立てて高おのよそあきふ下あふ
ぬふよききき——け——高おのぬふやうかく
義理あふ——てあふことぬ人のきききききき
ふあきき相又右あきき教^しきききききききき
中ふ始ハ少群とよかり——人の今ハ始きき
きききききききききききききききききき
きききききききききききききききききき
きききききききききききききききききき

も報^ひあり日は少と捨てのりて其ハそのさう
あるさふはうんこめりやうて其^いこきふても
商人職人さふ我家^{ささ}先の二はさおてこ家^うれ家
督^くとも減^へ減^へ減^へ家^かぶ子たさくあくま外不仕合^ああ
續^つてこもあく其^い物ともものづううさる其^いあ
りあうたぬの時^{とき}かよりと下^{した}並^{なら}うりひた下^{した}地^ち乃
ちここつささるさうかふて其^いさる商人のせぬ
りありといある時^{とき}ハさ家^かの種^{くさ}と味^{あじ}味^{あじ}して其^い種^{くさ}
乃^{すなは}種^{くさ}あきふつさそのこくあくハさ其^いさふ

おゑ乃利得あるもふもあふも祿さう
 一うし人の罪候とこのむぐかうにせん
 まる衣あて賣均一旦ハ祿さう替てと人ふ
 換とせして商人の買がより一かのあせ
 ろりありやこ賣さといふも久くあし
 さら人の少神押座志くるハ法うさの買
 ふま人の立介あるやふねおぐ一我も
 おゑの換とらるも悔へうにその人の
 うけあて金銀りあげさらるるあまき

あてとまらるゝのふあゝに右ふとゞ現りり
どかりあげとんがけに我うもあれお入とてうと
して商物とま入人ぐ一割とれハ我ハ七八あゝ
人ガハあゝれば我ハ五六あゝ人よると也だうふ利は
とつりて能均きとあへ——然ハやづ、我ハ神
のお入と毛りくあて、家内うちうちのにはとあるといふ
はとりと志がくまゝまゝ——オラ一商人ふ表うら
裏あゝるゝ大さふあゝ——まゝのちりうげひまこ
うくまゝ笑と中り——てあゝめと人と

さくさくしてりふけのあつちあるとのぞむ
かへりす一旅ゆきといふり金銀かけぞんの
あささうふさるるやねあつち商がさして
とゆきと味あへられ換あへしとのぞく
ぬりのあつちあつち商人の出せまゝあるハ
眼あま人もさるるあつち又かこふ掛
てまゝとせてまゝある人も十人ふひさうハ
あささくも丸人ハさるるといふやのほさう
さるるあつちねよさくちさくちさるるあつち



あつてゐる時は、いふまでもなく、
天性の純智じゆんちなまじりかき金持のようであ
うして、ふつとあるものあり、あつては、
少許ふり、あつては、あつては、あつては、
計けい並へ、さうあつて、あつては、あつては、
まゐるあつて、あつては、あつては、
ゆへに、風情が、あつては、あつては、
家の位、並の、あつては、あつては、
高家ハ、自カの、少許と、結は、あつては、
あつては、あつては、あつては、あつては、

高士古仁

中へ猶多ハさのさあてともね^{やう}良^{りやう}ね^ねあつは
 大ふあき^きのあらと何不といめあさて
 あさうがうく御さあつととく
 べし^よを^れせかそつるふい^いと海あつに時
 ふしうてこそ人ふ付て^ま新^{とく}破^くあつべし^いやうハ
 五人あるうらふハ律候あてはさうとあつとも
 を律ぬかつともあつバこそ人^がうと式人^もと
 少不^さ長^{ちやう}成^{じやう}とも御あるりの二人と飯の式人ハ
 律候中一あるりの飯^い主^{しゅ}——律候ある者

きりの小御ある者有り御を律儀とく

する時ハ律儀のころくわぐくしととぬぬなり

ぬあくちのころふふとくせいろくあり天性

私欲しよくよりき者ありそはふんぐかひおあるものぬいさぬ家
ちよとハとくせん

ちと私欲とくちく実めささるものふとく歌

やうとあはうとやうぬりのありあるハ大酒

とこのとあやとささちうぬりのありけ二ふ

ハ御みをふあふハ口人くじんと分てささちあり

してつふづそれとさうんふちうてちゆりかてい
しとふばちやくせん

乃人の上ふて九十九とて是時由一人律候よて致
咄ありてまふばこざりともむ者の商人一人細り
ふぬかりある者あり毛と上ととまよこ一人ハ
石律候よて致まふく知ふある者あり毛
と下とまよこ式人中一人ふ能方ぬき者あり
まよ式人中一人ふあき方ぬき者あり新海
田人ハ音悪しともふいづこへともかこむく人
あり毛大づいのはとりありいふと律候
ある者ふけこざりある者の何り律候あ

そ乃ひまあるさりのありこちトの者と終おは
あひともうけと^{きこ}きい^{きこ}てらるゆえ先ハ家々
能りのいこらありよこ家々よあるのあら
らるこきと風俗とるる者あはそのもふ
進出まぐ——^{よさ}も^{よさ}風がへううなるは割なる
るか

と代小者ある人かうとるる者極ノある
——^ちや^ち所^ち聖賢の^ち教の^ち賢愚ハ我く
及あふあはれは是ハ——^ち並ぬ^ちを^ち神帝

縛つてハ大うこようぬりのちりそのせハ五人張
りのあきハ張つて武人のようぬ者もあいま
るハ目^め立てちうぬ者なりとまきハ義で上金の
者一兩人ハ張る權^{けん}と付金何るやふようは主人
を家のものとも者たふ張ると親^{うい}張^{あき}るやうなり
まじげに金^{いん}銀^{ぎん}二金銀の者家には金銀も
さうふと金銀ハ必くとも位ふある家におの
かり少とさうあきんと人かくりのちり張
まハこつてれ者ハち張く悪う仕つてふ

観^{かん}云^いとらんぐき^きこ^こま^ま小^こ使^しま^まけ^けお^おぬ^ぬと^とり^りね^ねへ^へ云^いて^て外^{そと}の
ま^まと^とあ^あー^ーく^くえ^えせん^{せん}あ^ある^るの^のま^まら^らだ^だう^うれ^れき^きり^り
あ^あげ^げく^くれ^れま^まと^とハ^ハは^はま^まぶ^ぶ小^こに^に粉^{こな}ま^まぐ^ぐー^ーて^て二^に面^{めん}続^{つづ}
と^とけ^けあ^あさ^さね^ねや^やう^うよ^よあ^ある^る哉^や是^{こゝろ}と^と悪^{あく}風^{ふう}俗^{ぞく}と^とよ
こ^こふ^ふあ^あこ^こ家^けよ^よハ^ハり^りく^く徒^た者^者あ^あり^りこ^こも^も終^{つひ}ハ
悪^{あく}風^{ふう}ふ^ふと^とこ^こら^らと^とれ^れて^て右^{みぎ}の^の因^{いん}縁^{えん}ふ^ふあ^ある^るの^のま^まら^ら
か^かぞ^ぞ此^{こゝろ}家^けハ^ハ何^{なん}不^ふ々^々金^{きん}銀^{ぎん}あ^ある^ると^とて^てと^とな^なぐ^ぐて
や^やろ^ろく^くる^るの^のま^まら^ら兎^と角^{かく}風^{ふう}俗^{ぞく}徒^たま^まて^てあ^ある^るハ
七^{しち}人^{にん}の^の内^{うち}り^り五^ご人^{にん}五^ご人^{にん}の^の内^{うち}ふ^ふこ^こ人^{にん}ぬ^ぬの^のあ^あを^を度^ど

家のこめよあーかゝぬしうよまがし勤は
徒風俣やなるのりやうまゝ風俣の悪風
しとハせくせんの者をし悪風とらんぬ上命や
しとハ下の者をしらんやうしよあゝとたかま
まに家のこめよあゝなるやうぬの時味もあゝ
あやせよやと持とかく何やととらんや
あゝととれハようさゝとぬぬやらんたゝと
のこゝととらハハあやういゝやうふんてあめ
くらとやぐ下れ者と上とらんやうし肉實の

[illegible]

むかして申すのおゑふをづもび家のたぐふ
わーかゝぬるのよてさあぐんをんやうせふ
何のともあるべーカるふつとさふ居者い
トれ者のふ習ふわーかゝぬるふもどく
やうそれトの者ハ上令の者ふあううもぬ
やうふ我う位いのちと越こてにやうやふでぬぬふ
とへー何るもかゝるやうわううふ
勤きんへー平生へいせいのうすれハ新しんひてあけ
さうあともあうぬりのふて格くわ式しきふあー

風俗や云ハ別ふむらがーきるふあゝん
こかくそゝ家の格式くわいしきやう厚篤とく小なり人々志満り
かりにゆゑもとそれ格式小遠々るゆゑあそ
やふふとゆゑなりそれ格式のあゝやハ
先主一人より少と一派引さげ法るゆゑふ
ーて悉くハつふふ及ぶに衣被合ふこのろ
とさうーあゝ家の尺の尺あゝかゝるぬ
やふふその少と持てね家なれ堂々家
者ふあゝくや付直つとこハ免角とく強とくくが

それゆゑに少くも一ふくまゝのちりへいせいに
して平生人とうかがていつくほく物ふを
わづかにかく家人の悪状を人となすうらバ
ひづれふその者乃そま家とよく見え立て
平生のそま家ふあゝぬらゝひひくふ有ハ
その時よりそまといふてつらん——そまとなて
たゆ——つらんふ人へぬといふすゝあそく物なり
さうふようて右ふ風俗といふと夕と日陰
ふ能くやりきりせゑてあらうとすへく

ひさふなひして何不ふよまぐりして
あつとてその際ひまのなきといふすはあひりの
ありとまばその者れあつとそれかつきあつて
ふんしとまは我より智のあつとまの家人
あつとまふえん練あつとまの者ハ中しくふんしがあ
らつとまのあつとま又全張とつとふふあ
づるひあつとつとまあつとまあつとま
らつとまあつとまあつとまあつとま
あつとまあつとまあつとまあつとま
あつとまあつとまあつとまあつとま

ふいそ哉——む——然いふまゝにまのこの
なりとも流るふしき——さくさくち切り
き——まゝいふかうくあぐあひにあらんれ
るこれに掛さるふあゝ秋は毛も我うぬけ
かいふささる役やおひして——入ち切ふさる會紀
るるあり相風俗さるるハ大切れるるる
悲——て家人と割^{さい}らるるよ悪所はくあり
及んばいろくのはなときていやり——しるこ
い——ともぬさるのひまばあき——ちう人た

あつて家内ふ居者ハ皆くきうされぬは
りて役あるさりのハあらざるなり先親ハ素に
侍る者の役子ハ辭て我代とて役妻ハ内親
おさめふ付ハつせと勅下男下女ふあるを
皆それくの役あるハ家内ハ是とあると
する不ふれ者ハ皆我親類同あなりと
下人とも我よりみえけと親えとあり
まゝ我よりみえとありとありとあり
よりとありとありとありとありとあり

わきと知り思^ふてその好と知るといひあき
たよふ志がしそまはさる上あるなりこよまハ
我うまふ合し何とぬ思^ふ人の上れるなりされ
まふ人ふ好^す嫌^ふわれハかうしに生^まれふ如^く歌
あるりのふて武^ぶ人とも人ともつるばま心^こ人ある
りと侍^{さむらい}まふとわくとも移^{うつ}るなりぞくる
りのかり免^{めん}解^{かい}それといふとはさる人のま^ま実^{じつ}
あ、思^{おも}實^{じつ}侮^{へん}はるあまう皆^{みな}仕^し者^{もの}と我^{われ}う親^{おや}まふんや
いふやふおひ人ハくふ思^{おも}ててハあまのあり

志か—その^いむの^いちうさ^いは^いく我も^いは^いく^いける
下人^いと^いら^いる^いく^い愚^い人^いなり^いあ^いら^いる^い人^いの^いあ^いら
か^いする^い者^いと^いつ^いふ^いす^いあ^いる^いも^いい^いだ^いい^い能^いあ^いる^い者
の^いの^いせ^いさ^いる^いふ^いう^いて^いる^い人^いの^いな^いつ^いひ^いの^い及^いぶ^いぬ^いと
と^い入^い金^いさ^いら^いる^いあ^いら^いり^い相^い人^いふ^いハ^いな^いさ^い合^いめ^いる^い不^いま^い合
と^いあ^いる^いり^いの^いお^いて^い能^い者^いと^い我^いも^いふ^い何^いさ^いで^いは^いな^いさ^い
不^いま^いあ^いら^いり^い我^いも^いふ^い何^いさ^いか^いら^いる^いも^いい^いだ^いい^い我^いも^いふ^い何^いさ^い
合^いさ^いる^い人^いの^いあ^いら^いる^いハ^いよ^いう^いな^いる^いも^い我^いも^いふ^い何^いさ^い
か^いら^いる^いも^いふ^い何^いさ^いり^いあ^いれ^いか^い—こ^いの^い人^いも^い好^いて^いる^い

[illegible]

金と人のていと事ふかろと居るやうとけ

あふぐさうと恩業して居るものふへ残る

このまゝふたと云付あるひハせしぐーく

二五三
物と云ふ人とはかゝるに非ざる我公乃

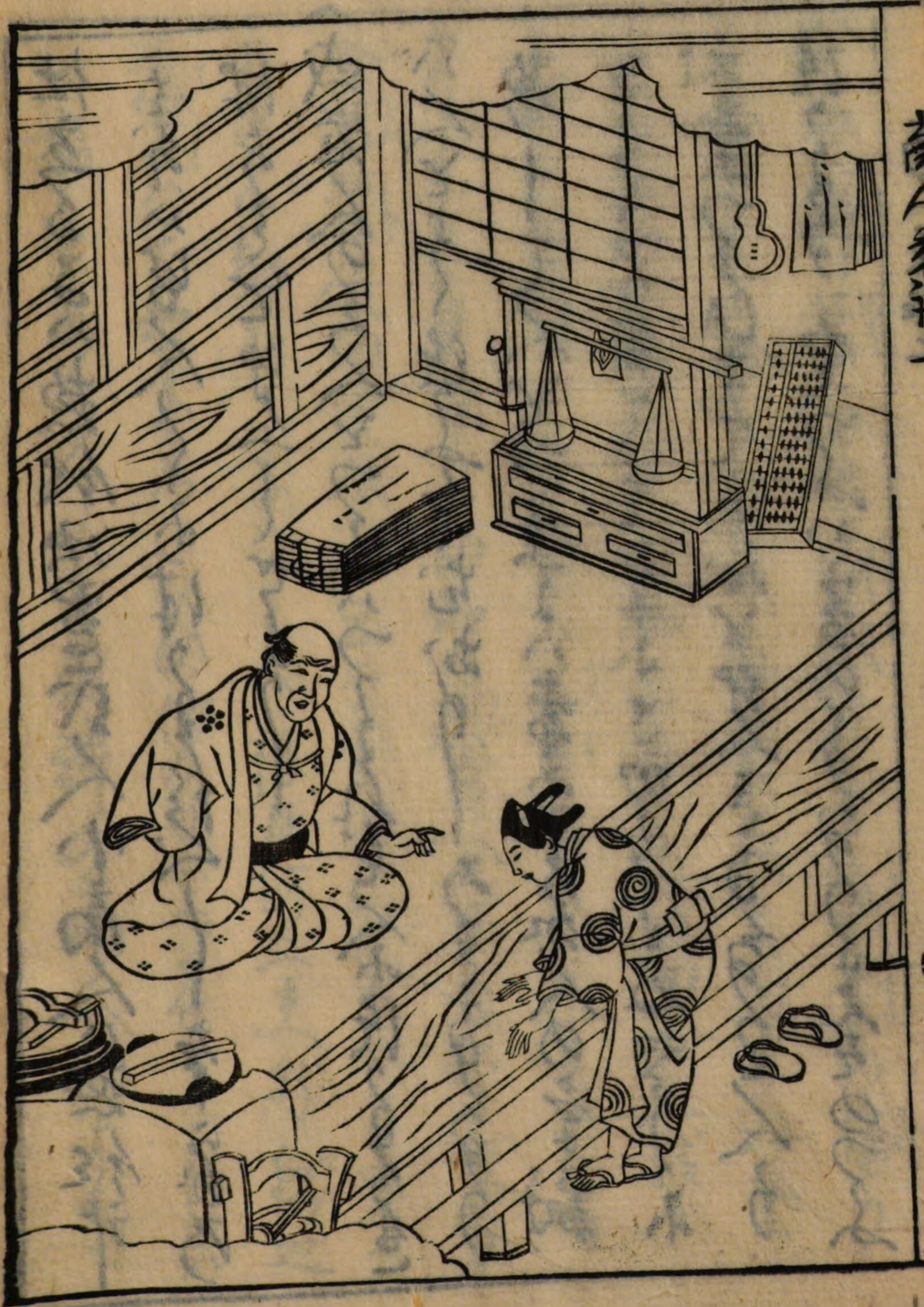
あふふれはかきしに我うふふふふふふふふふふ

これぬりのうき人ふたふたふたふた

きりふりそめふ拍と云付るゝと云ふ人の

意を以て物ふか
 ちと居るまゝといふ
 事な^がら

時ハゆゑその者ハ種しゆふふちちううふふああるるいいハ



仕立る子ハ惣飲決男と云人小商人ハ惣飲計
こを介ハ皆人く小はうと云人く一草家乃
城よりと云人く一と云人く

或者人のまゝといふ人につらむねと人おはるゝまゝに
 はんといふはうまもおりーろまゝのうり
 ちつて人といふよの常ふまゝ家人のまゝ家
 とよくいふていふまゝふかゝるゝまゝなり
 云々葉つゝひやうとんとけんといふ人
 法うろろをいふまゝのうろろせんそのふ

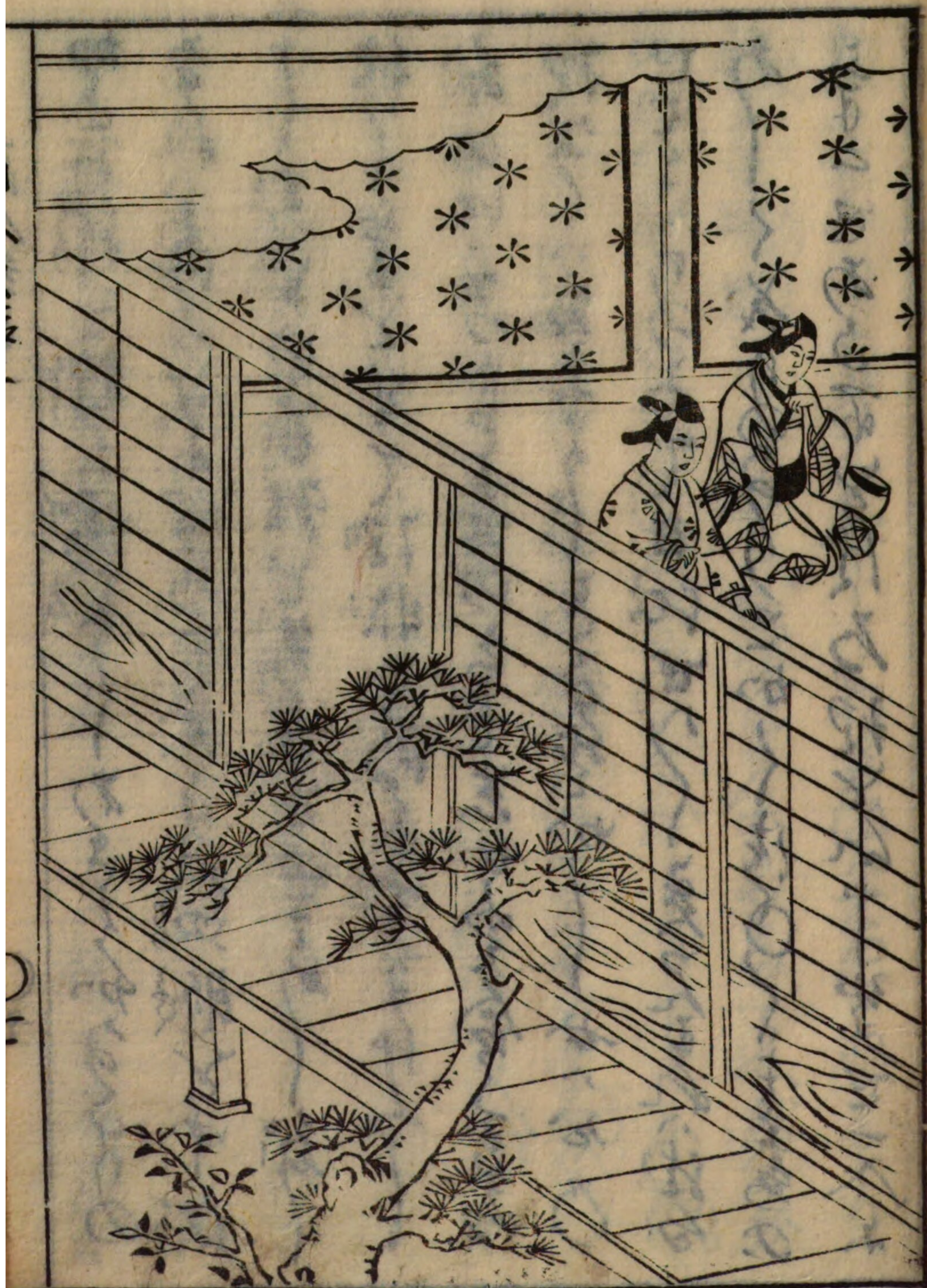
出家ハ佛^{ぶつ}子^こ百姓^{ひやくしやう}職人^{しやくじん}は皆^{みな}こゝに家^{いへ}業^{わざ}の産^{うみ}なり
うむいさといふに我家^{わがや}業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}
ふて産^{うみ}かくいふく産^{うみ}もあつた何^{なん}れ我^{われ}々^々
家^{いへ}のこゝろあつた産^{うみ}もよふものこゝろあつた
や——といふやうに我^{われ}々^々の業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}
分^{ぶん}派^{はい}者^{しや}のやと云^いふやうに何^{なん}れぬ産^{うみ}
うむいさといふに我家^{わがや}業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}
うむいさといふに我家^{わがや}業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}
うむいさといふに我家^{わがや}業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}
うむいさといふに我家^{わがや}業^{わざ}も何^{なん}れぬ産^{うみ}

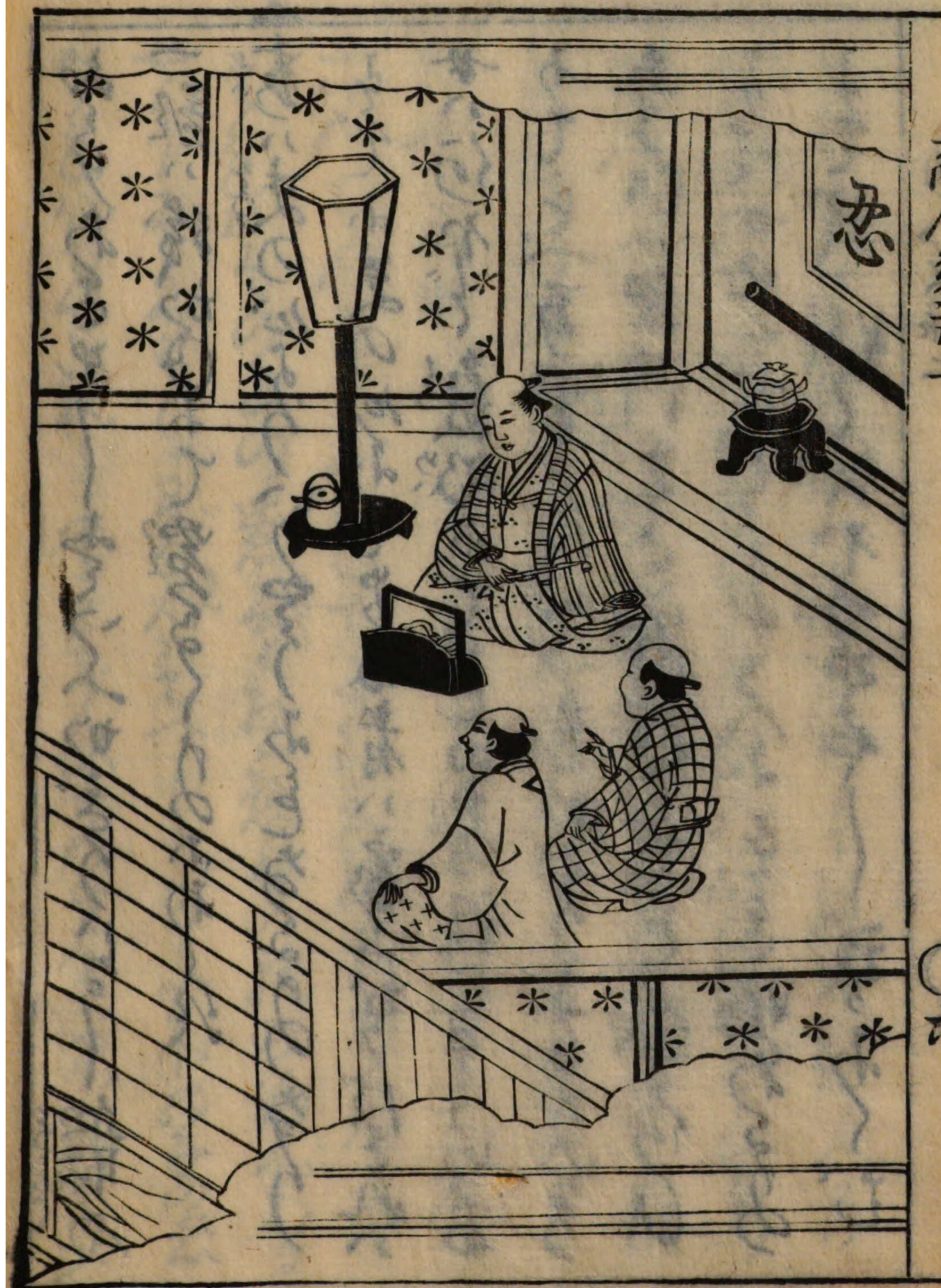
親はつらうアスガさい——家よりあれ位階の立
ぶさくあぐちうとしてたよの入てあこ抱とに月布
こち——他人の級たふのせこちぐさい計て抱う
もふあるしを能く親のか入ある人といふ
まり——立立藝ふてと親のあくとおかこある
しうこ方終とそちうあぐちうたふ藝たふ——たる
親乃家とあてけかこちうけあるもは
いづちあぐちうこちうそちう商人の藝ハ商人
まり商人の恥ハ商人ちんといふり武士ハ武る

を成ぜしめて子を内へ入ふ不めをされ
よされハ入るがして収へると成長してのち
かろくすその養ふ長ぐ一と成ふより一より
高き日くふうくほふハ惡所と成く
親一つの養ふ人と云者より一といふ人養ふと
このあのをとありとありと成てくるを
なり親と偽て根性ハ人なりと成てくす
彼は彼も実ハ悟まんとされとわかく
とるうらふにハ親と死一門と入るがごと

何のやんば先ず一なと多くむ——いかなや
いふは陸を志ありける家の子ふ商賈ありあ
かりいさゝかきまうく情出に悪^{わる}性^{しやう}ふあるをいひを
足立てなありす——^いぬハ中よりと下の商
人の子なるあるありありぬ常しく商の家の
風俗のうりやを教まかせふ実なるありあるを
ふそとて金銀と自^{みづか}中^{ちゆう}ふとせられぬ金とさう
あらば事あるやなく持せざるあり商人は
法よりちたふ商人ら——さうよきものなり

かこハ絆と持ふ後^ご——あさちからりの
 むれハ妻のほふばゐてちるれ血^ち脈^{みく}と中^{ちゆう}絆^{ばん}
 ——^{えんごう}実^{じつ}の家^け輕^{けい}と^{うま}あうそのまゝ——^ち絆^{ばん}
 能くまふと付て^り非^ひ分^{ぶん}めふ^まま^まけ——
 介のほらと^し妻のま^しと^まか^ま合^あはるる
 け^りく^いお^よま^う——さ^る我^が——^まハ^ん乃^の
 せ^んい^のの^よて^し日^ひせ^りく^まん^され^ハ絆^{ばん}
 あ——^りの^ちり^こか^くは^のく^いま^まの
 ま^ふと^ある^いと^ける^いと^んや^ませ^入ふ





血脈の

懐わさるゝ

えぐく 家^{うち}獄^{ごく}小情とせし 親^{おや}氏^し法^{はふ}人^{にん}あり
果^は徒^と人^{にん}とがめさるる 親^{おや}乃^のばの 徒^と中^{ちゆう}ノ一^{いち}あり
百人^{ひゃくにん}ふ九十九^{きゅうじゅうきゅう}人^{にん}がくのとくさるる 倅^{ひがし}とら親^{おや}
とあにめありさるる 商人^{しやうにん}あるとの 孝^{かう}ありと
子^こハ我^{われ}かこさるる 父^ふわく 人^{にん}さるるとも 百人^{ひゃくにん}ふ
一人^{ひとり}も人^{にん}なりとくさるる 孝^{かう}親^{おや}ととわらるる
そとにその子の 慈^じ愛^{あい}を おもひ 親^{おや}のゆゑに あり
さうふとらるる 矣^やん^んととへし 一^{いち}ふふ不^ふ孝^{かう}子の 孝^{かう}
ありとて 親^{おや}と 中^{ちゆう}まが ひと 孝^{かう}と 不^ふ孝^{かう}と 不^ふ孝^{かう}と

即ちぬふるればせひあり先親を侍乃者の
親ふ孝なりと云ふ中一親の時より身侍あるを
とよありしあり親の跡と云ふやうふ
して親侍おゑふ衣振食よりおやうと
更しして親と云ふへしそれと老の所はり
あるは却て不孝なるべしとかく親乃
のやとあるやうふとべし衣振食よりあると
乃孝なりハ親乃に親と云ふむかりてかん
ぢんの心ぐ安らかなり親ハ実乃孝なりとハ

かなふなむらさき——えいせいにかーも仲の——ては
 るるうごちあざりのかたよよろづ——さわもじを
 素波^{そな}りくふいつとろく家らりふひろがりて
 のらぬハ家とろくおあるづ——さてこそまゐる
 ハ風^{ふう}加^かの幸^{ゆき}志めあふこばは絲く何れもけりて
 心よかりとあやうふ——て望^{もち}ね事^{こと}のまふが
 とおぐ——
 親ふ慈と云ハ右より聖賢^{せいけん}のや——へれくあ
 ともこそ色ハ我く——と紀乃又商^{しやう}あるりのく

ねまこ亭まはゆのうんあも者おどりとありぞくると
つるうハ冥こころ加ふかなふ中一ありへりふと云ふ親と
てこ隠ひそ居まよのけらハ子りあこがふやりてまあ子
家人ハ亭ま乃んかよくあてまといふんそれ家乃
お怒りおろつんちかゝひて亭まうまける
りのあまこハ冥こころ加ふかなふ中一ありへりふと云ふ親と
熱あつのるうハ亭ままどなぐかりてせぬののあり
おこ亭まハ分りあうるの人もあぐんのやうなれ
ハ分りお怒りとしねお怒りよとこころふ

ありいふとふまゝ人なりふ資^し報^くさうせ^せ者^{もの}
へささればよれとぞかりん均^ひするハ^い倅^がする人
先^{まづ}身^み持^{もち}より教^してそのくまするもとぞ報^うと^ちかぬ
さうふーて宿^{しゆく}へさでさるハ中^{なかつ}く実^{まこと}れ^つ浩^{こう}り
とハ玄^{げん}かうとさるバ急^{いそ}て我^{われ}り^らと見^みん
ありいせ今^{いま}より衣^え袂^{たひ}居^ゐふとそとと^とぬのち^ちは
さるやうふ^ふ離^{はな}るべー主人^{しゅじん}の身^み持^{もち}乃^{すなは}ち^ちと
るさうひて宿^{しゆく}へーてと^と風^{ふう}情^{じやう}して身^み持^{もち}
ありさるハ中^{なかつ}く^ち立^たた^たい^いち^ちと^とが^がこ^ころ^ろ人^{にん}



商人夜話上

商家乃其主なる者ハまじかぢと彼人
 相来^{きやう}れあるがうーさうあづかうんなくそのいふ
 小生つゝさする人とあるおどろれバ初メ公と付てエ
 まもべー一第おはなして我^{わが}りせん^にの家内の人のみ
 本とあるらあるはんとらん素人ともやうになつて実
 お持べー一少^ち々^々より人よるものとひまぐ念^{ねん}の衣
 張居所^{しやうしょ}たおけとげて家かられたりのごとの人
 なういとあるやうにおさぶー一毛髮^{もうはつ}怒^{いか}の中へ

閑とふ日用子弟をいぬしり事とひそ
く母巻端とてとるるやが懐とさんてんたむ
かへ辞してゆゑさばく求る事れとらるれ
は止とて得とてあへつて三巻とほし高
人夜話と名はる様と鏤とる同志乃人子
弟を教ふ一冊とて成るは幸甚とんつ

享保十二年丁未正月吉辰 書林柳枝軒記之

題人夜話一冊

商人夜話序

勤儉ハ家を富より元少て教訓ハ人を導
く則ち予が友上川氏某ハ平安城乃ニ商家
なり其人とあるに篤實少く多作業に志すに
聖の道を学びたるはあはれと善言を公聞くに
胸に多くて忘れど怡々して身は軽んを
ねり常ふ従者とありて多倦事ありて故に
家僕までもそのばり風俗すありなり或時
雨中に訪ふ母をほく机上に一巻ありとて

富家丸

一正直 三

一堪忍 四

一思案 三

一養生 三

一用捨 三

右の事毎日用之身を立家成
たこし子孫延命の術方也

禁物

一無理

一魚介

一奢

一油斷

一虚言

9091

No 1219

新編
商人要略

上

Kamikawa Yō

Akindo yawa

Ōsaka Bunsei 6 [1823] kyūhan

L.jap. E 503, 1-3

urn:nbn:de:bvb:12-bsb11166022-9